

# 中世莊園と墓地・葬送

高橋一樹

Medieval Manors and Their Relation to Graveyards and Funerals

はじめに

- ①西国の中世莊園と墓地・墓
- ②遠隔地の莊園群と中世墓地

【論文要旨】

京都や鎌倉などを対象とした近年の中世都市研究の成果はもとより、その延長線上に地方市町などの「都市的な場」が精力的に検出され、その境界性が強調された」ととあいまって、中世の地域における葬地や墓地が莊園などの境界地点に数多くみられる事が注目してきた。そうした中世墓地の立地環境の背景には、中世の人々の死穢を忌避する観念や、京都を中心とした莊園制的な求心構造の影響があることはまちがない。本稿はこの現象をあらためて確認しつつも、みずから現地調査えた事例に即して、所領間の境界に位置する中世墓地の性格究明をさらに多角的に行うべき」とを示した。具体的には、文献史料や絵図史料の分析にもとづく莊園制的な地域編成のあり方、あるいは地域の支配や生活にもとづく人々の意識・行動と関連づけて、考古学的な手法により確認・整理された中世墓地の遺構・遺物の歴史的意味づけを試みた。ただし、莊境内に位置する葬地や墓地が領主間のホットな境界争いが展開する場で

もあるようすに、中世の地域における葬送や慰靈と表裏の関係にある権力論に重点を置く結果となり、さらに新たな分析視角の追究が今後の課題といえる。